2▶9 特集
10▶17 Town Topics
18▶23 市政レーダー
24▶25 ささやまホットステーション
26▶27 はぐくみ
28▶29 施設情報
30▶35 Living Information Smile

原子力発電所で災害が起これば、篠山市はどうなるんだろう!?

原子力災害について考える

篠山市民防災のつどいに参加して

篠山市は、福井県の高浜原子力発電所から50～70キロの距離にあります。福島県の原発事故の教訓から、篠山市においても原子力災害対策が求められています。

原子力災害という大変難しい対応を迫られるものに対して、かけがえのない命を守っていくために、どうすればよいのかをみんなで考えましょう。

問い合わせ　市民安全課
☎552-1116

原子力防災についての知識・意識を深めることを目的に、1月19日に篠山市民センターで原子力防災フォーラムを開催しました。

フォーラムには、消防団員、自治会長など200人を超える市民の皆さんが参加されました。

特別講演

守田敏也さん(フリージャーナリスト・篠山市原子力災害対策検討委員)

逃げる場所を決めておくことが大切

人間は災害が起こったとき、「大丈夫だ」と思いたい心理が働き、なかなか避難できないという性質があります。災害に備え、事前に逃げる場所を決めておくことが大切です。

原発事故が起きたときには、可能な限り遠くへ逃げることが重要です。また、安定ヨウ素剤(※)の服用が効果的です。副作用が出る確率はインフルエンザ予防接種の20分の1ほどです。被ばくを避けるためには、外出を控え、雨に当たらないようにすることが重要です。また、救助にあたる人は、特に被ばく対策が必要です。

教訓を生かすため福島原発で何が起こったのかを講演する守田さん

原発ゼロ社会の実現がやはり望ましいと思います。

(※)安定ヨウ素剤…予防的に服用することで、放射性物質の1つである放射性ヨウ素が体内でとどまりにくくなり、内部被ばくの抑制に効果がある薬剤。ごくまれに、副作用としてアレルギー反応を引き起こす場合がある。

パネルディスカッション

橋本敬子さん(福島県から移住)

私の住んでいた福島県では、事故後も政府は「ただちに健康被害はありません」と繰り返すばかりで、避難の指示や勧告は一切ありませんでした。地震でライフラインが閉ざされた地域が多く、ガソリンや物資の供給が不十分だったこともあり、多くの人たちが事故直後の高線量の中、給水車に並ぶなどして外に出ていました。

避難した今でも、多くの方が健康に不安を抱えて生活しています。万が一のときに少しでも放射能の影響を軽減できるような知識を身につけていく必要があると強く思います。

森口久さん(篠山市自治会長会理事)

東日本大震災は、防災訓練や備蓄の必要性、となり近所の助け合いの大切さなど、阪神・淡路大震災で意識づけされ、薄れかけていたものを再認識させるとともに、多くの教訓を残してくれました。まちづくり協議会などで行っている防災訓練を通して、さらに人間関係やコミュニティを作り上げていくことが大切だと思います。

住民みんなで安定ヨウ素剤などについての理解を深めていくことが、私たちの身を守り、地域を守ることにつながると思います。

北山正さん(篠山市消防団長)

原子力災害から住民の皆さんを守るためには、まず消防団員全員が原子力や放射能に対して共通の認識を持つことが大切だと考えます。

どんな災害であっても、消防団がしっかりと動いていきたいと思います。

神田幸久さん(篠山市原子力災害対策検討委員会事前対策部会長)

事前対策部会では主に、原子力災害を想定した地域防災計画のあり方について検討してきました。その部会の中で確認したのは、事前学習と防災訓練の重要性です。

原子力災害は「見えない災害」です。放射能はにおいがなく、目にも見えません。福島では、原発事故情報も十分に明らかにされませんでした。この様な「見えない災害」を「見える災害」として対応していくために、学習と訓練を行う必要があります。

パネルディスカッション

玉山ともよさん(篠山市原子力災害対策検討委員会応急対策部会長)

応急対策部会の最大の成果は、安定ヨウ素剤が備蓄できたことです。これからは災害が起きた時の配布方法なども含め、もっと実践的に考えていきたいと思っています。

もう一つの大きな成果は、市の復旧復興支援基金を活用した移住者の住宅支援や、市民が行う復興支援事業への補助が実現したことです。しかし、時間ともに福島の事故に対する関心が薄れてきていると感じています。もっと身近な問題として原発の問題を捉えていきたいと思っています。

これからも、避難基準や避難経路など、話し合わなければならないことはまだまだたくさんあります。

篠山市の主な取り組み

原子力災害対策検討委員会(平成24年10月～)

自治会、民生児童委員会、消防団、市民公募委員などによる委員会。事前対策部会(市民への啓発、放射線測定など)と応急対策部会(安定ヨウ素剤の備蓄など)で議論を重ねています。

放射能測定(毎月市ホームページで公表)

本庁および各支所、大芋小学校、西紀北小学校に放射線測定器を設置し、定期的に測定しています。

安定ヨウ素剤の備蓄

放射性ヨウ素の体内への取り込みを防ぐ安定ヨウ素剤を5万人分備蓄。緊急時の配布については、原子力災害検討委員会でいち早く配布できる方法を検討して、配布場所ならびに配布方法を市民の皆さんにお知らせする予定です。

原子力防災の市民への啓発

防災意識を高めるため、フォーラム(下記)や学習会などを開催しています。

安心して暮らせる篠山市をめざして！

篠山市市民生活部長 **澤輝義**

東日本大震災から3年になろうとしています。

「災害は忘れたころにやってくる」といわれるように、人々の記憶や危機管理意識も月日とともに薄れがちになってきます。

本市では大震災の教訓を踏まえ、原子力災害対策委員会を立ち上げ、原子力災害について真剣に討論が繰り広げられています。本市は高浜原発から近い距離にあり、万が一事故が起こった場合、放射性物質の大気中濃度が非常に高くなることが県のシミュレーションでも示されています。

市民の皆さんに安心して生活をしていただけるように、安定ヨウ素剤の備蓄を始め、事前配布に向けて説明会も順次開催していきます。